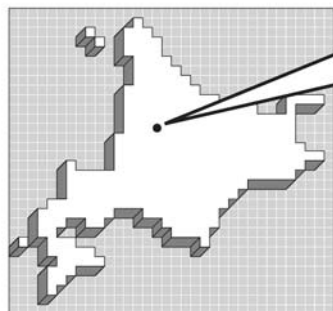


連載 わがマチの自慢 No.17



鷹 栖 町

みんな笑顔で あったかす

鷹栖町は、上川管内のほぼ中心部に位置し、東西南を旭川市に、北部を和寒町に接した全体的に盆地状の地形で、町の中心部を北から南に石狩川の支流オラサツペ川が貫いている。

町の中心部から隣接する旭川市のJR旭川駅まで約一二km、車で約二五分という距離にあり、また道央圏・道北圏・道東圏に直結する高規格幹線道路の「旭川鷹栖IC」と「旭川北IC」に近接しており、道内の主な流通手段である陸路輸送の経由地として機能している。

道内有数の農業地帯

町の総面積は一三、九四二haで、うち耕地面積は四、三三〇haで約三一%、林野面積が六、四一九haで約四六%となっている。

耕地面積のうち田耕地面積が三、六一〇haと約八三%を占め、畑耕地面積は七一九haの約一七%となっている。
(二〇一五年農林業センサス及び二〇一六年面積調査による)

鷹栖町は品質、収穫量ともに道内でも屈指の米産地である。水稻の作付面積は二〇一六年度二、三二〇haで、二〇一五年の市町村別農業産出額

表1 経営規模別農家戸数の推計値(戸)

※面積は水張面積

| 年度 | ～1ha | 1～5ha | 5～10ha | 10～20ha | 20～30ha | 30～50ha | 50～100ha | 100ha～ | 合計 | 1戸当たり平均面積 |
|----|------|-------|--------|---------|---------|---------|----------|--------|-----|-----------|
| 26 | 53 | 121 | 50 | 86 | 37 | 3 | 4 | 1 | 355 | |
| 28 | 54 | 91 | 49 | 75 | 39 | 7 | 4 | 1 | 320 | 10.5ha |
| 33 | 28 | 51 | 30 | 60 | 44 | 15 | 5 | 1 | 234 | 14.3ha |
| 38 | 33 | 29 | 19 | 39 | 41 | 24 | 5 | 2 | 192 | 17.5ha |

(推計は経営所得安定対策加入者を基に、75歳で離農と設定し、新規就農2名/年を確保した場合)

表2 経営者の年齢等

| | 農家戸数(戸) | 平均年齢(歳) | 後継者がいる戸数(戸) | 後継者ありの割合(%) |
|----------|---------|---------|-------------|-------------|
| 平成28年度 | 320 | 63 | 37 | 11.6 |
| うち60歳台以上 | 209 | | 26 | 12.4 |

(経営所得安定対策加入者を基に算定)

(推計)によると、農業産出額三六〇億円に対し米の産出額が二八五億円、約七四%を占めている。また特産品のトマト・ジューズ「オオカミ」の

「桃」の原料トマト生産や「夏秋きゅうり」の栽培も盛んな道内有数の農業地帯であり、野菜の産出額合計は六億八千万円となっている。

主目である米の

二〇一六年度の作付面積二、三二〇haは全道で十一位、収穫量一三、六〇tは全道一〇位となっており、品種別作付面積は、「ななつぼし」が九三〇・六ha、「ゆめぴりか」が五八三・八ha、「きらら397」が六二六・四haとなっている。野菜の中で中心と

なっているのは「夏秋きゅうり」で、二〇一六年の収穫量は一、五二〇t(農水省平成二八年産作況調査)である。町の人口は平成三〇年一月二五日現在、六、九九八八(広報たかす平成三〇年二月号)である。

二〇一五年農林業センサスによると、主に仕事として農業に従事している基幹的農業従業者数は五四九人(男三一人、女三三八人)で、うち六五歳未満の男性が約五六%の三〇二人、女性は五三%の二七人となっていて、鷹栖町においても農業者の高齢化や担い手の減少が進行しており、農業後継者の確保や新規就農希望者の就農支援が大き

な課題となっている。

農業を始めやすい環境づくり

鷹栖町では、新規就農希望者の受け入れを、土地利用型の水稻・転作作物(麦・大豆など)栽培とキュウリ・トマトの施設園芸作物栽培に分けている。

土地利用型希望の新規就農者研修は、「受入農家協議会」で選定した「受入農家」で土地利用型農業の研修を二年間行い、その間、「あったかファーム」での座学研修も行い、就農者の認定を受けることになる。

四月開設の「あったかファーム」も多機能の農業交流センターも

今年度開設する地域の担い手・新規就農者の研修の場としての鷹栖町農業交流センター「あったかファーム」では施設園芸型を希望する新規就農者の研修を中心に行う。しかし「あったかファーム」は新規就農者の研修支援施設としてだけでなく、多機能を持つ農業交流センターとして計画されており、その基盤整備の概略は次のとおり。

① 研修用ビニールハウス
キュウリ土耕栽培 七二坪×四棟 研修生一人につき

き一棟

② 調査研究用ビニールハウス
キュウリ養液栽培 七二坪×一棟 研修生全員で管理（新技術の導入試験として二種類の養液システムを設置）

③ 耐候性ハウス 給食用作物・試験作物一〇八坪×一棟（ICT農業の導入試験として環境制御器・自動巻上機設置）

④ 給食用野菜の露地栽培用畑と町内中学校体験農園として畑が五一四㎡

⑤ 町内小中高校の体験受入れ用水田が一、八〇〇㎡

⑥ 他に納屋、事務所、駐車場等を予定

「あったかファーム」の持



つ機能・役割の第一は、もちろん新規就農希望者の研修受け入れ機能である。

現在、鷹栖町では四名の新規就農研修生の受け入れが確定しており、研修生一人がそれぞれ七二坪のビニールハウス一棟を管理してキュウリの土耕栽培を学ぶこととなっている。

研修作物としては各自のハウス一棟でのキュウリ土耕栽培の他に、ハウス一棟を全員で管理するキュウリ養液栽培、本センターの農育・食育機能として提供する年に二〜三回の地産地消をテーマとした「保育園・学校給食」向け野菜の露地栽培と耐候性ハウスでの野菜栽培管理、そして特

産トマトジュースの原料用トマト栽培管理研修を町農業振興公社ハウスで実施する予定である。

また一月から三月の間、座学研修として農業知識・経営・経理等について学ぶ予定である。

第二の機能は、地域の担い手育成機能である。

地域の既存農業者と新規農業者全員を対象とした、年四回（六月、十二月、一月、二月を予定）の相談会を開催する。

① 地域の農業者が農業経営の検証や規模拡大・経理対策・法人経営・第三者継承等について農業経営上級アドバイザー・税理士法人な

どからアドバイスを受ける。

② 専門指導員による複合経営への取組み、新規作物の取組みなど新たな経営に関する栽培技術の指導を受ける。

第三の機能は新規販売作物・特産品向けの試験作物の調査研究機能である。

テーマを「健康」にすえて、耐候性ハウスでの薬用作物やゴマなどの栽培が検討されており、作物の選定等については、地域おこし協力隊や町内加工団体などと検討していくという。

第四の機能は、農育・食育機能である。

① 町内外の生徒・学生を対象とした農業体験事業で、

本年度は鷹栖中学校の野菜栽培体験を予定。一九年には町内二小学校の水稻栽培を検討中である。

② 食育関連事業として、年二〜三回実施予定の地産地消をテーマとした保育園・学校給食の日の野菜提供である。

提供する野菜は、保育園・学校給食の管理栄養士と相談しながら、露地栽培・ハウス栽培していく予定である。

第五の機能は、ICT農業の試験導入機能である。

① 本年度はハウス内環境制御器・ハウス自動巻上機・キュウリの養液栽培新システムの導入を予定している。

② 効果検証には、旭川高専

と農家で構成されている
「見える化研究グループ」
と連携して実施する予定で
ある。

第六の機能は土づくり機能
である。

土づくりの研修の一環とし
て、町の土壌・食味分析セン
ターの分析業務の手伝いを行
う。

以上のように、施設園芸分
野への新規就農希望者の実技
研修の一年目は鷹栖町農業交
流センター「あつたかファア
ム」で、キュウリ・原料用ト
マトの施設園芸の栽培技術研
修と露地野菜の栽培技術研修
を計画している。

研修の二年目は、「受入農
家協議会」で「受入農家」を

選定して、そこでキュウリ・
原料用トマト栽培などの施設
園芸技術を中心とした研修を
行い、二年間で農業者となる
ための必要な技術・知識等を
習得し就農者の認定を受ける
ことになる。

町では施設園芸強化策とし
て、ハウスのリース事業や施
設園芸ハウスの団地化なども
検討している。

町ではまた「第三者経営継
承」による新規就農者の受入
れ事業も推進しており、現在、
水稻栽培分野で進行中の事業
もあるとのことだった。

「オオカミの桃」 とどさんこプラザの非アル コール飲料で売上げ一位

鷹栖町の特産品として株式
会社鷹栖町農業振興公社が製
造販売しているトマトジュー
ス「オオカミの桃」が有名だ。
道産品のアンテナショップ
「どさんこプラザ」のジャン
ル別累計販売金額トップテン
(二〇一七年四月一日〜一八
年一月三一日)の非アルコール
飲料部門で売上げ一位が
「オオカミの桃」無塩、二位
が「オオカミの桃」有塩だ。
「オオカミの桃」の誕生に
は、鷹栖町の「健康な街づく
り」政策(一九七七年)が関



わっている。町民の総合健康診査と食生活調査の結果、町民のビタミンA、ビタミンCの摂取量不足が判明した。冬期間の野菜不足になりがちな食習慣を見直す運動も始まり、当時、町内のどこの農家の庭先でも栽培していたトマトが食べきれずに余っているとるに目をつけ、農産加工簡易施設（公民館を改造）に農家の主婦が完熟したトマトを持ち寄りジュースを作り自家消費したところ味もよく、周辺の評判もよかった。

転機となったのが当時の一村一品運動の広がりから開催された一九八三年の北海道第一回ニューフロンティアフェスティバル。これに出品する

ためにトマトジュースのネーミングを募集したところ、当時鷹栖町で栄養士をしていた手嶋哲子先生（現北海道文教大学健康栄養学科講師）の「オオカミの桃」と決まった。トマトの学名を日本語に直訳した「食べられるオオカミの桃」からの発案。ネーミングの面白さと完熟トマトと稚内で作られる「宗谷の塩」（塩分〇・二％）から作る味の良さ、防腐剤等の無添加製造であることなどにより、二位入賞して高い評価を得た。

その後、消費者からの問い合わせや流通業界からの要請などの反応から加工販売が可能と判断して商品化し、一九八六年から本格的に出荷を開

始して現在に至っている。

これらの取組みをバックアップするため、鷹栖町と鷹栖農協（現たいせつ農協）と北野農協（現あさひかわ農協）の出資により、一九八六年株式会社鷹栖町農業振興公社が設立された。

同社では現在、トマトジュース「オオカミの桃」と手作り味噌「鷹栖の味噌」を製造販売するとともに、町内の主要野菜の「夏秋キュウリ」の選果・梱包業務を旭川青果物出荷組合連合会から請け負っている。旭川青果連は旭川市・鷹栖町を含むあさひかわ農協・東旭川農協・たいせつ農協で青果物を出荷する連合会である。

二〇一六年度の同社の売り上げ状況は、

オオカミの桃 二七六百万円
鷹栖の味噌 二百万円
選果料 二二百万円

原料トマトの出荷契約生産者は鷹栖町・旭川市で二〇五軒。「オオカミの桃」は出荷されたトマトを煮込んだだけのジュースで添加物等は一切加えないため、生産者には、樹上完熟させたトマトのみを使用するための出荷基準の徹底をお願いしているとのこと。そのためにたいせつ農協とあさひかわ農協の生産者部会の連絡協議会を組織し、栽培講習会や出荷検討会を開催して統一した基準の徹底を図っている。

七月上旬から一〇月上旬の出荷時期には、振興公社が専用コンテナを生産農家に必要量貸出して、工場が稼働しない日曜日を除き毎日庭先集荷してジュースを生産している。

年により収穫量に増減が生じるため、ジュースの生産量は公開していないとのことである。原料トマトの品種も公開していないとのことであった。消費者や取扱業者さんには申し訳ないが、生産量より需要が大きく待っていただく状況となっているとのことであった。



手作り味噌「鷹栖の味噌」

は、鷹栖町産の米と大豆を原料に麹を作って仕込む、開拓時代の醸造法を受け継ぐ本格減塩味噌で、丸二年じっくり熟成させたもの。町外では「どさんこプラザ」や札幌丸井「キタキッチン」で入手可能だという。

現在の課題は、工場での働き手の確保だそう。ジュース製造もキュウリの選果も季節的な作業で、働ける期間が四〜五か月程度に限られているが、働く側からすると年間を通じて仕事をしたい。町内からの働き手の完全な確保が難しく、一部は派遣労働に頼っているという。

今後の課題としては、

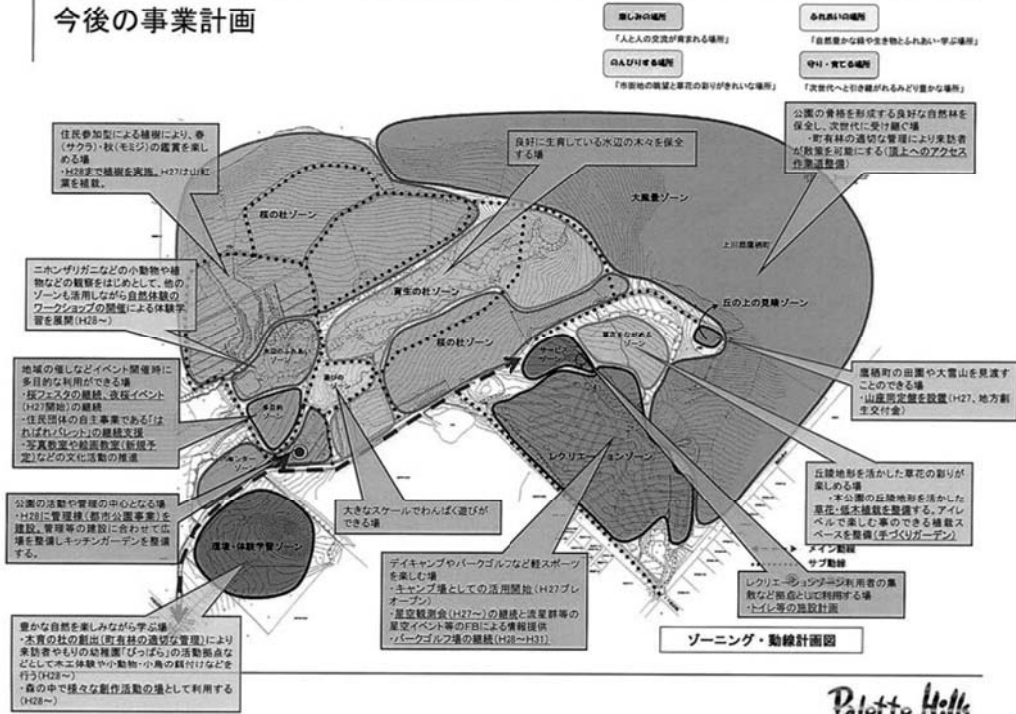
ジュースの原料トマトの安定的な確保だそう。原料トマトは他の農作物に比べると価格が低くなるため、生産者を確保することが一番の課題とのことだった。

町民手づくりの杜 〜パレットヒルズ〜

鷹栖町の西に位置するパレットヒルズは、かつて蛇が多く生息していたという言い伝えから「蛇山」と呼ばれていたという。観光資源として整備するに当たり、町有地として六七・三haを取得し、名称を全国公募した結果、現在の「パレットヒルズ」と決まった。

パレットヒルズは自然を生かした複数のゾーンに分けられ、ここを舞台に様々なイベントが行われている。多くの町民が参加して二〇〇〇本のエゾヤマザクラを植樹した桜の杜ゾーンでは五月にはお花見や夜桜ライトアップが行われ、多目的ゾーンではみんなでさくらとバーベキューを楽しむさくらフェスタが開催される。また六月には「丘の上の音楽会 ハレバレパレット」が開催される。レクリエーションゾーンには三六ホールのパークゴルフ場が整備され一日三〇〇円で楽しめる。草花をながめるゾーンでは、親子料理教室や星空観測会が開催され、昨年五月には

今後の事業計画



Palette Hills

センターゾーンに急な雨天にも対応できる休憩スペースと水洗トイレを完備した管理棟の利用が開始された。

町民のアンケートでは「子供が楽しめる遊具の充実」や「キャンプ場としての設備」などに多くの意見が寄せられており、町民と行政が一体となって整備を進めている、現在進行形の憩いの杜である。

〈取材後記〉

鷹栖町では「鷹栖町 農業ビジョン」（平成三〇年度～平成三一年度 第二期）を作成して次世代へ引き継ぐ力強い農業をめざし、その重点事項の一番目に担い手農業者の育成・確保を掲げ、その具体的な取り組みとして担い手研修センター事業に着手し、今年度「あったかファーム」として結実していました。四名の研修生に期待しています。

「パレットヒルズ」の桜の写真を表紙に拝借いたしました。五月の満開時期に訪れてみたいと思いました。春の到来が待ち遠しい。

（取材・写真提供・原稿の確認には鷹栖町産業振興課農政推進係、株式会社鷹栖町農業振興公社の皆さまに多くの協力を頂きました。ありがとうございました。）

一般社団法人北海道地域農業研究所
研究参与 富澤 哲